

# やすらぎだより

11  
月  
号

陽気で緑にあふれた生活 それがやすらぎ園です

施設長コラムバックナンバーホームページ掲載しています。

コラム第149号

## 「 強調する関西弁 」

施設長 植田 誠



今年度に入って上京する機会が多くなったことは145号でも記したが、行く度につくづく私は「反東京人」であることに気付かされる。反東京というより‘反東’であり‘親西’なんだということ。それも強く普段から深層の心理として持ち抱いているのであろう。

関東に一步足を踏み入れた瞬間から、私は関西弁を強調する。人に道を尋ねる際や店で注文する時は勿論、東の福祉関係者と挨拶する際等は、さすがに初対面の方には失礼のない範囲を考慮した関西弁を使ってしまう。

「ポチポチですネ・・・」「あきませんネ・・・」

‘ポチポチでんな’ ‘あきまへん’ が使える昔の商人（あきんど）ならいざ知らず、少しは礼儀をわきまえる現代の福祉人である私なりの言い回し、語尾に多少の丁寧さを残す変な関西弁が関東人からすると滑稽なのかもしれない。

先日も、華の都東京でこんな変な言い方をしてしまった。

「奈良から電車で来たサカイですね、少し遅かったのは」

このサカイが大阪府の堺と勘違いされ、普段標準語で話す相手に通じなかった。伝えたかった「電車で来たので少し遅くなったのです」が「堺に寄ったので遅れました」に勘違いされたのは、関西弁という方言の使い方とイントネーションに誤りがあったからであろう。

真意を理解された後、相手が発せられた一言は

「関西弁は難しいヨネー」

このスマートな一言に、私の表情は笑顔でありながら

「何がヨネーや」

と、反省しつつも胸中で素早く無言のツッコミを入れていた。

1600年関ヶ原の合戦を歴史で知って以来、ポリシーは打倒東軍だ。スポーツに限らず東対西なら西を応援し続け、アウエーの地？東京ではこれからも関西弁を強調するだろう。

‘ヨネー’ という標準語が脳裏から離れず、私の反東意識を駆り立てる。



### 社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- 特別養護老人ホーム やすらぎ園
- 在宅サービス事業所
- 居宅介護支援事業所
- 訪問介護事業
- 訪問入浴介護事業
- 短期入所生活介護事業
- 在宅介護支援センター
- 天理市東部地域包括支援センター
- ケアハウス やすらぎ
- 介護予防関連事業
- グループホーム むつみあい
- 低所得高齢者等住まい・生活支援事業